

第3学年 国語科学習指導案

令和2年2月5日（水）第5校時

- 1 単元名・教材名 広告の批評文を書こう
 「説得力のある文章を書こう 批評文を書く」
 （「国語3」光村図書）

2 生徒の実態と本単元の意図

(1) 本単元に至るまでの指導の系統

育成すべき国語の能力 【書くこと】	学習内容	単元・教材名 (実施時期)	学習活動と関連する 他領域等の指導
<ul style="list-style-type: none"> ・観点を立てて鑑賞し、根拠を明確にして構成を考え、読み手にわかりやすい鑑賞文を書くこと。 [第1学年 ウ] 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞 ・構成メモ ・鑑賞文 	「根拠を明確にして魅力を伝えよう」 鑑賞文を書く (1年2月)	【言葉の特徴や使い方に関する事項】 ○「さまざまな表現技法」 ・表現の技法の名前と特徴
<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活の中から課題を決め、多様な方法で情報を集め、伝えたい事実や事柄を明確にし、文章の構成を工夫すること。 [第2学年 ア・イ] 	<ul style="list-style-type: none"> ・記録カード ・情報の整理 ・構成メモ ・意見文 	「根拠を明確にして意見文を書こう」 意見文を書く (2年10月)	【読むこと】 ○「君は『最後の晩餐』を知っているか」 ・例示の効果 ・論理の展開の仕方

(2) 生徒の実態と本単元の意図

本学級の生徒は、社会的事象について複数の媒体から資料を選び、自分の意見を書く活動を繰り返し行ってきた。昨年度は「根拠を明確にして意見文を書こう」の単元において、社会生活の中から話題を一つ選び、年鑑などの図書資料・新聞・iPad（インターネット）の中から最もふさわしい資料を選び、調べたことを記録カードに記入して意見文の根拠として活用した。今年度は2学期に「新聞の社説を読んで自分の考えを書こう」の単元において、根拠となる事実を集めるために和食に関するパンフレットや図書資料を活用し意見文を書いた。その他にも総合的な学習の時間で資料の活用、出典の明記などを経験してきている。また、批評文に関しては、昨年度「走れメロス」（太宰治）の単元のまとめとして、はがき新聞に作品の批評文をまとめて廊下に掲示したり、今年度1学期「握手」（井上靖）の単元の最後に作品の批評文を書き、優秀作品を学年で共有したりするなど、経験を積んできたこともあり、設定した学習内容に沿って書くことができる生徒が多い。書くことが苦手な生徒もほとんどが構成メモの段階で共有をしたり、優秀作品を読んだりすることによって書き上げることができている。

本単元では、教科書に掲載されている ACJAPAN の広告と、例として示されている批評文を参考に、構成と観点の立て方を知るところから始める。その後、三種類の広告を提示し、主体的に関心をもてる広告を選ばせる。提示する広告は「慣用句・ことわざ・故事成語」の単元の学習時に紹介した、同じ方向を見つめる猿と犬が前面に描かれた「嫌いな人をほめてみよう。」（JT）と、正月の新聞広告より高層ビル群をラジオの電波に見立てた「何かが始まる音がする」（TBS ラジオ）、アンビグラムを中心に置いた「かわることを、おもしろがろう」（集英社）である。構成メモの段階では同じ広告を選んだ者同

士で集まり、分析をするところから共有の場を設けることで、分析を浅いものにせず、広く深い見方ができるようにする。説得力を高める引用資料を探すために学校図書館の図書資料や新聞、iPad を活用し、適切な事実を効果的に使える力の育成を図る。また、構成メモは他教科でも学習活動を行っている4人一組で行うことで活発な意見交換を行えるようにする。アドバイスをしたりされたりすることで、深い学びにつなげたい。

広告は紙媒体に限らず私たちの身の回りに数多く存在し、生活に密着したものだが、ともすれば印象だけで評価したり影響を受けたりすることも多いと思われる。何気なく目にしている広告を扱うことで、批評をするということに必要なことは何なのかを知り、説得力を支えているものについて考えを深める機会にしたい。また、説得力を増すための「資料の活用力」について再確認させる機会としたい。

3 単元の目標

- (1) 目的や意図に応じ、社会生活に関わることなどについて、論理の展開を工夫するための分析力をもとうとしている。(関心・意欲・態度)
- (2) 社会生活の中から課題を決め、分析を行うための観点を設定し、説得力のある構成を考えることができる。(書くこと)
- (3) 論理の展開や表現を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書き、読み合ってももの見方を深めることができる。(書くこと)
- (4) 短い言葉の中に込められたニュアンスを読み取り、五感を磨くことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 単元の評価規準と学習活動に即した評価規準

	ア 国語への関心・意欲・態度	イ 書くこと	オ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	・目的や意図に応じ、社会生活に関わることなどについて、論理の展開を工夫するための分析力をもとうとしている。	・社会生活の中から課題を決め、分析を行うための観点を設定し、説得力のある構成を考えることができる。 ・論理の展開や表現を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書き、読み合ってももの見方を深めることができる。	・短い言葉の中に込められたニュアンスを読み取り、五感を磨くことができる。
学習活動に即した評価規準	①同じ広告を選んだ人同士で(積極的に)批評するための観点を定めようとしている。 ②交流活動に(主体的に)参加し、自分の考えを深めようとしている。	①自分の関心もてる広告を選び、観点を定めて分析している。 ②説得力のある資料を適切に引用している。 ③他者の構成メモを読み、適切に指摘をしている。 ④アドバイスを参考にして推敲をしている。	①広告の文字通りの意味だけでなく、絵や配置などから広告に込められたメッセージを複合的に分析しようとしている。 ②教科書の表現例を参考に、批評の言葉を選んで使っている。

5 指導と評価の計画（全4時間）

	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1	○学習の概要を知り、 学習計画を確認する。 ○観点を立てる。	・学習課題の設定 ・批評と批判の違い ・教科書の例をもとにした批評文の書き方	アの① イの① ・机間指導による観察 ・ワークシートの内容考察
2	○観点を立てて分析する。 ○引用する資料を探す。	・文章の構成 ・説得力のある資料について	イの①② オの① ・机間指導による観察 ・ワークシートの内容考察
3 (本時)	○構成メモを書く。 ○相互評価する。	・説得力のある資料について ・構成メモの相互評価	アの② イの②③ オの① ・机間指導による観察 ・ワークシートの内容考察 ・相互評価の取り組みの様子
4	○推敲する。 ○清書する。	・批評文の推敲 ・文章の構成	イの④ オの② ・机間指導による観察 ・ワークシートの内容考察

6 本時の学習指導（3／4時間）

(1) 目標

- ・目的や意図に応じ、社会生活に関わることなどについて、論理の展開を工夫するための分析力をもとうとしている。（関心・意欲・態度）
- ・社会生活の中から課題を決め、分析を行うための観点を設定し、説得力のある構成を考えたり指摘したりすることができる。（書くこと）

(2) 展開

学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫
1. 本時の学習課題を把握する。	・本時の学習課題の確認。	・前回の活動を思い起こし、批評文の構成を全体で再確認する。
〔学習課題〕構成メモについて、説得力のある批評文にできるように相互評価をしよう。		
2. 学習課題の取り組み方について見通しをもつ。	・構成メモの完成 →相互評価	・既習単元「新聞の社説を読んで意見文を書こう」の学習内容を想起させる。

<p>3. 構成メモを完成させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成 説得力のある資料について 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ広告を選んだ者同士で意見交換をし合いながら、最終確認ができるようにする。
<p>4. 構成メモを相互評価する。</p>	<p>構成メモの相互評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> 評価の観点を明確にしてから、相互評価をする。
<p>5. 本時の自己評価をするとともに、次時の学習を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価 次時の学習内容の見通し 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動を評価し、次時の活動に向けて意欲付けをする。

※例として使った教科書173頁の広告も併せて黒板に掲示する。





評価場面 1
 〈学習活動に即した評価規準〉
 イの② オの①
 〈評価方法〉
 ・机間指導による観察 ・ワークシートの内容考察
 〈手立て〉
 規準に達していない生徒
 ・構成メモが未完成の生徒にはグループ内の人の構成メモを参考に促す。
 規準に達している生徒
 ・指摘されると想定される内容を助言できるように促す。

※教科書の例文のように、広告のキャッチコピーや絵、構図などを**根拠として**分析をしているか。例を示して共通理解を図る。

相互評価の方法と観点
 〈方法〉
 ・通常の4人一組で行う。
 ・構成メモを時計回りに回覧し、観点到に沿って評価する。
 ・構成メモにアドバイスを記入する。
 〈評価の観点〉
 ・根拠を明確にしてあるか。
 ・資料には説得力があるか。

評価場面 2
 〈学習活動に即した評価規準〉
 アの② イの③
 〈評価方法〉
 ・机間指導による観察 ・ワークシートの内容考察
 〈手立て〉
 規準に達していない生徒
 ・一緒に構成メモを読み、項目を絞って言葉を引き出す。
 規準に達している生徒
 ・よりよくするためにはどうしたらいいか、具体的なアドバイスを考えるように促す。

7 板書計画

<p>D</p> 	<p>C</p> 	<p>B</p> 	<p>A</p> 	<p>○評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> 主観だけで書かれていないか。 資料には説得力があるか。 	<p>如月五日</p> <p>めあて 広告の批評文を書こう</p> <p>見通す ↓相互評価 構成メモの完成</p> <p>構成メモについて、説得力のある批評文にできるように相互評価しよう。</p>
--	--	--	--	--	--